

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2013年 第33週 (8/12-8/18) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		33週	32週	31週	30週
上段:患者数	小児科	18	18	18	18
下段:定点当たりの患者数	眼科	5	4	5	5
	インフルエンザ*	28	26	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市				千葉県	
		注意報	8/12-8/18	8/5-8/11	7/29-8/4	7/22-7/28	8/5-8/11
			33週	32週	31週	30週	32週
小児科	RSウイルス感染症		0	8	15	2	54
	咽頭結膜熱		0	3	9	5	56
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		11	17	17	14	125
	感染性胃腸炎		35	42	51	36	316
	水痘		6	3	3	5	62
	手足口病	★★★↓↓	92	208	203	247	1196
	伝染性紅斑		0	2	0	1	20
	突発性発しん		6	15	7	18	67
	百日咳		0	1	0	0	1
	ヘルパンギーナ		30	77	95	79	325
流行性耳下腺炎		1	0	2	5	25	
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0	0	1	0	1
眼科	急性出血性結膜炎		0	1	0	0	1
	流行性角結膜炎		1	2	1	1	18
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		1	2	0	0	4
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	1	1	1	1

★★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(6件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	70歳代	病原体等の検出	結核	女性	50歳代	IGRA検査
結核	女性	20歳代	病原体遺伝子の検出	レジオネラ症	男性	60歳代	病原体抗原の検出
結核	女性	20歳代	IGRA検査	梅毒	女性	30歳代	血清抗体の検出

・結核4件(175)、レジオネラ症1件(5)、梅毒1件(12)の報告があった。

( )内は2013年累積件数 ※ 累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

## 定点当たり報告数 第33週のコメント

<手足口病>前週より減少し5.11となった。依然として流行発生警報基準値(5.00/定点)を上回っている。過去10年の同時期と比べると最多。

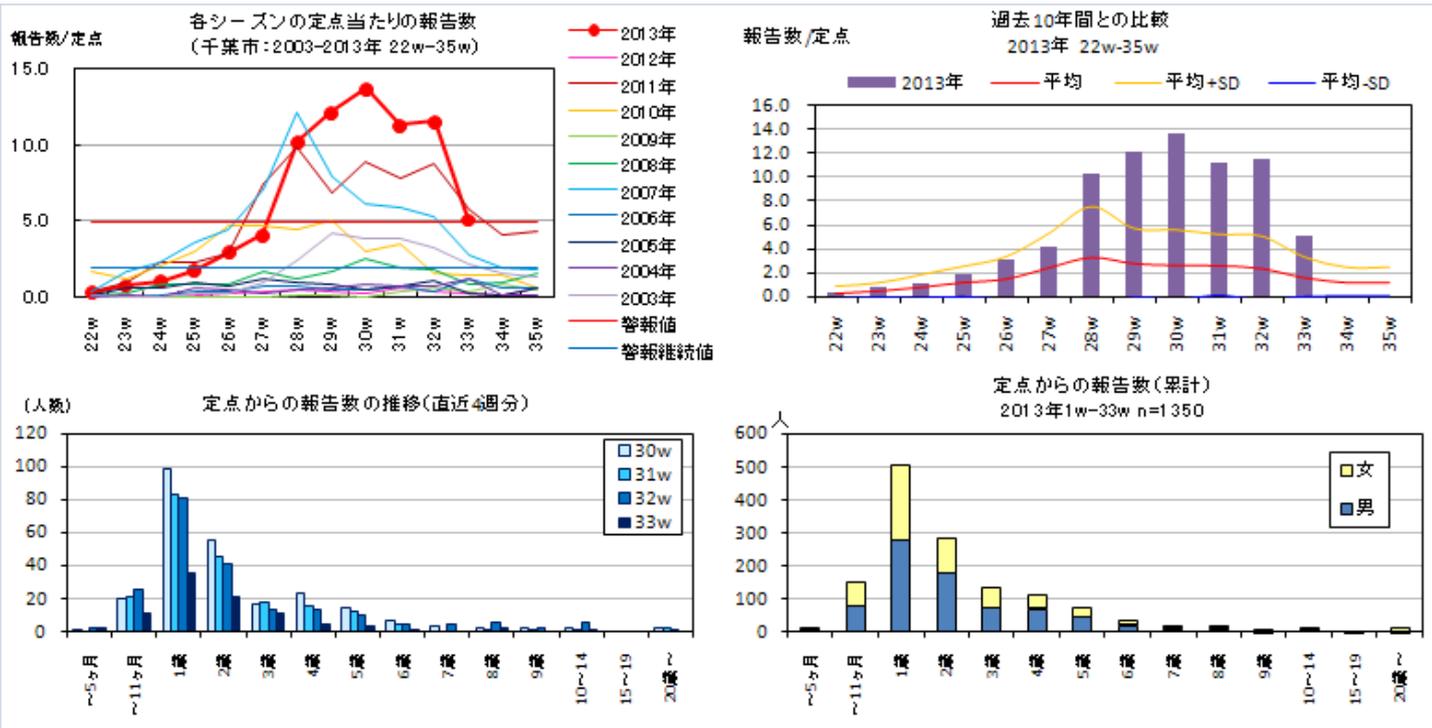
# トピック

## <手足口病>

2013年の全国レベルの第32週現在は前週より減少しましたが、流行発生警報開始基準値(5.0/定点)は上回ったままです。過去6年間の同時期と比較すると最多となっています。都道府県別では、新潟県、山梨県、長野県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多くなっています。千葉市の第33週は前週より減少し5.11となりましたが、依然として流行発生警報開始基準値を上回っており、過去10年間の同時期と比べると平均+2SDを上回り非常に多くなっています。区別の発生状況では、若葉区で増加し、他区は減少しました。稲毛区、中央区、若葉区で流行発生警報開始基準値を上回っており、美浜区と緑区で流行発生警報継続基準値(2.0/定点)を上回っています。稲毛区が最多で、同区の1歳児で最も多く発生しています。

手足口病は、口腔粘膜および四肢末端に現われる水疱性の発しんを主症状とし、幼児を中心に流行する急性ウイルス性感染症です。主な原因ウイルスはコクサッキーA16(CA 16)、あるいはエンテロウイルス71(EV 71)です。感染経路は経口・飛沫・接触などで、潜伏期は3~4日が多く、主な症状が消失した後も3~4週間は糞便中にウイルスが排泄されます。まれに髄膜炎や脳炎などの合併があり、経過中の頭痛と嘔吐には注意が必要です。

流行していることから、感染防止に努めましょう。ワクチンなどの積極的な予防方法は現在のところありませんが、経口・飛沫・接触感染を防ぐため、排泄物の取り扱いに注意し、手洗いうがいなどを励行しましょう。



## <梅毒>

2013年の全国の累積報告数の第32週現在は711で、過去7年間の同時期と比較すると最多となっています。都道府県別では、東京都、大阪府、神奈川県に多く報告されています。千葉県は47都道府県中7番目となっています。千葉市の第33週現在の累積報告数は12で、過去10年の届出数の平均+SDを上回っており、多い状況となっています。年齢階級別では50歳代後半が最も多く、また男女別では男性が7、女性が5となっています。

梅毒は、梅毒トレポネーマ(*Treponema pallidum*)による性感染症で、主に菌を排出している感染者との粘膜の接触を伴う性行為や疑似性行為によって感染します。妊婦が感染すると、胎盤を通じて胎児に感染し、先天梅毒となります。潜伏期は3週間程度で、感染部位の病変を始めとして全身に至り、発熱、倦怠感、リンパ腺症、粘膜疹、扁平コンジローマ、脱毛、髄膜炎、頭痛などを起こし、その後神経症状等様々な症状が出現します。予防としては、感染者との性行為、疑似性行為を避けることが基本です。コンドームの使用は効果はあるものの、疫学データからすると淋菌感染症の場合ほどには完全でないとされています。

